ま高

齢

5

0)

声

力

関

応 講

答師

IJ

ア

で

で

ム学う

エ タ

タ場 13イ見ゆ時

W

こと

9

利加 - 事用く 2 業対だ 対象 さ 対象さ

齢者

の

相

談窓口

地

域

包括

支援

t

ンタ

व

24

ぴ

な

つ

つ

力

フ

 ${f I\! I}$

認

知

症

高

おビ院護支門保よ安今気ス後予援職健う心 の防をが師、生にし連、主 に業回軽に つ生い活 て つ ま 携社任 過が つ をと ケア ごすこと 会福 て 集通中所 らくださ り、社 マ た「りかかた」 認 ネジ 予 型 知症やなる 渡サールに対して、 ヤ で地 1 き域はるで の専 利

だでき でなす安きりく静加 者がたなかで趣く 今 な後齢 ま 9 き味な でた回病 なのっやり復気く活てれ、し、 く活 て れ し き な動 て足たけ いの際が

お 一 活 括 る す通を支方そ す しの通す所取援ものいる。 し所め型りセ多際 サ戻 ンくに V) , しタ 一ま介 7 ス 61 で す たはが申 業く元地を 一たの域考 をめ生包え 間援お※

う探活 可職活 ま元づ型し る たのらしいビ う に自活のビま すに目店のヒょハ のリ信に原スすCた でハを祈田 C 。事だ す ビ持づを ご自リっけ一は 参分専てる緒

日

会場

内

容

対

対

象

定

定

員

費

費 用

申

込

み

X

締

め

切

り

持

持

ち

物

問

13

5

日

(金)

午

前

9

時

か

ら

お

ひ

の象者い 認者 定 を要支 け援 た 方 1

6 を理ル内 日中 フ 間心がマ < と を で か し

利週用も身う択活いい住ごの接管セ用 用1回行体おし動の生みし6を理ル内 期回数いの手でな場活慣で日中)フ容 助り場活慣れてい ど なをれ かい域もど送た しで含地れ地

回数いの手て ま動伝地 L 方

は3期す カ間

時

午 7

利え※ L ま用 期 協所す 間で 相月 談間 時 13 お 伝

内場

オ 老

ン人後月

ラ福 1 26

ン分

セ 30 金

5

がイ祉時日

☆北☆地セ住生 部 4 域 ンま活 4 夕 4 包 いで 8 地 1 3 括 域 00 8 に地図り 包 支 区りのご 6 括 1 援 相 3 支 9 援 2 セ 0 ン 談 地 と くださ など 夕 セ 7 域 包 ン 括 を 支

8

0

す

か

話

内場

12 在 レ 操 予 老 午 13 8 11

一い時

防人前日日日

ダの \ 272225

1家11日日日

☆南い夕申電

部服オし

•

時(日)(日)(日)

持 ※

表し、込みは、飲

物

動

き

P

み本来

人所

で 0)

申 み

レリ憩10(日)(日)(日)

無各市脳康介南各109

月料回内卜体護部日月月月

ク

IJ

工

1

彐

に

よる

4

4 老

5 人

9 7

6

憩

0)

家

2 V

ン、健



人住な

先 60

着 歳

順以

上

0

方

でど

申費定対

と者に 場 時 総午 7 を同感日 合前月話士 じ頃 保1018しだての (株) 1018 (大) かかかえる。 (た) からわかりないることない。 (大) は、(大) での思い。 (大) での。 (大 タ分 どい族 か合 え や交

対 知 症 な 0) 家 族 を 介 護 す

る 介不流 護安会 申持定 ☎ 北 ☎ 地 飲 15 る 4部4域み人方 8 地 4 包物 支 1 援 セ ン 夕

> 申年7 保経請金月7

8 域 3 括 包 . 6 括 支 2 援 0 セ 7 ン 夕 1

3 9 3

P 場 見学 & 乳 西夋 寓 0 お は な

酸 菌 0)

7 無 20 市 食 千 師 乳 在活県 アヤ でドク 順60バル 歳イト 以ザ販 〕売 上 0) (株) 方

上話 人靴ま月料人内生葉 た 5 祉飲は日 セ み 来 金 ン物所午 夕 で前 1 筆 申 9 記し時 う用込か 具みら う 電

質 う 福 4 3 5 2 1 B ゆ

お は な

申費定対 先 住

L です 込 。み 〇 ● 例※知査 査年 申り定偶 納 失年まマも免マ請制学さを申で度免請保額者50付 業金たイの許イに度生れ行請承申除方類 のまい後認識がいます。 さ が納 す 結日れ必付 ていて要で 果 本 は年 は金 が機

す なン**要**を方 どバ**な**ごは く学 だ生 さ納 い付

な番はナど号、ン 証ナ必 号 をの年バ 理わ金し 本しも利 人 カ の 用 由か手の る帳わ 確一 ド もなか 認 のどる で 基も き運 健の

を開

始

料的受険令1 が免のなけ料和日 あ除納理付免7(月) 付由け除年か また困 なし ・6ら どま納月 。は難です付分令 なとき、 玉 猶の和 猶 民 予国 6 予

度度

免す納金

り

ま

定偶 納り全るのぞ 免す納額者50付ま額場場れ本除る付 免合合の人制制を険済を保 / 月際、20前、10年 - 料的 - 100 - 10 す 除 や前 ま申失年配 た請業所偶 はにな得者 よどが 部りの一世 免保理定带 除険由額主 と料が以そ

法料の 下れ未予 のぞ満制 納 付場れの度 が合の方 前で 字され 年 申所本 請得人、 ます。

猶 予 、る方を除り、 申 請 継は き構 で で 続

申

合 わ せ FAX 4 4 4

る

と

玉 猶金予保 申料 請免受除

郵期の 一例※ **雇用保険被保険者離職票など雇用保険受給資格者証は、次のいずれか。(コピー可)**

中間です。 中間です。 中間です。 中間です。 中間です。 中間です。 中間です。 日本年金機構ホームページの解析ののでは、次のいずれか。(コピー可) が必での申請も受け付けします。 「国民年金保険料免除・納 「国民年金機構ホームページから翌々年6月分の 手葉での申請も受け付けします。 1 - 4 - 20 日本年金機構ホームページから翌々年6月分の 日本年金機構ホームページから翌々年6月分の 日本年金でできます。 1 - 4 - 20 日本年金での中間は、失業日 1 - 4 - 20 日本年金での中間を受け付けします。 1 - 4 - 20 日本年金での本人できます。 2 - 8 月分の 日本年金での本人できます。 2 - 8 日 1 - 3 - 4 - 20 日本年金での本人できます。 2 - 8 日 2 - 8 日 3 - 1 - 4 - 20 日本年金での本人できます。 2 - 8 日 2 - 8 日 3 - 1 - 4 - 20 日本年金世界所に郵 〒申認カ申※ら日送添付